

面 談 記 録

担当課 国保健康課

件名	総合的病院選考予定法人(医療法人社団 葵会)のヒアリングについて
日時	平成 28 年 12 月 6 日 (火) 午後 1 時 30 分～午後 2 時 50 分
場所	庁議室
相手方出席者	医療法人社団葵会 明石第一企画部長、川崎神奈川県企画担当部長
市側出席者	平井市長、須藤福祉部長、国保健康課 廣末課長
記録者	廣末 平成 28 年 12 月 6 日作成
面談内容	<p>市長：本市総合的病院誘致に係る公募に応募いただき感謝申し上げます。11月28日の第3回のプレゼンを含め、応募いただいた内容等に関し、選考委員会において審査を行い、12月2日に選考委員会から答申をいただいた。答申には、付帯意見も付されており、私としても確認しておきたい部分があるので、今回お越しいただいた。</p> <p>まず、医師の確保について、特に小児科医、産科医の確保が本当に可能か改めて確認したい。</p> <p>相手方：小児科医、産科医の確保が困難なのは、全国の病院でも同様であるが、本会傘下の病院等において、何が何でも確保する。</p> <p>市長：次に救急医療体制をどこまで構築できるのか。特に二次救急の体制についての考えを確認したい。</p> <p>相手方：当初から小児の対応は難しいかもしれないが、二次救急体制を確立したい。キャパシティはあるが、24時間365日の二次救急は可能である。</p> <p>病床が300床規模になれば、より多くの医師が確保しやすくなり救急体制も拡充が可能となる。川崎では308床の病院で月間約100件の救急を受け入れている。</p> <p>市長：個室100%ということであるが、比率を下げる等の考えはあるか。</p> <p>相手方：制度上50%までが上限であり、しかも同意が必要。また、個室といっても差額を設定しない個室は別に豪華なわけではない。男女の別や症状の度合いを配慮する必要がないため、ベッドコントロールの面で非常に効率的である。</p> <p>市長：外来見込みが最高500人/日となっているが地域の診療所との共存をどう考えるか。また、紹介・逆紹介が増えた場合に外来見込み数は減るのか。さらにその場合の収支計画の健全性は維持できるのか。</p>

面 談 記 録

担当課 国保健康課

面 談 内 容	<p>相手方：高齢化に伴い、一人の患者が病院の複数の科を受診するので、仮に地域支援病院になっても外来の数は減らない。外来数は最大で 500 人としているが、それより少ない外来人数でも採算可能であるシミュレーションもできており、収支の問題はない。</p> <p>市 長：市としては在宅療養後方支援病院を求めており、それに応えてくれているが、具体的に逗葉医師会との連携の考え方は。</p> <p>相手方：まだ接触はしていないが、早くから動いていきたい。病院としては、地域に開かれた病院としたい。また、医療機器の利用や電子カルテの共有なども考えている。</p> <p>市 長：シャトルバスの導入は考えているか。</p> <p>相手方：葵会傘下の病院でもシャトルバスの巡回について実績があり、導入の考えは持っている。</p> <p>市 長：不採算部門の切り捨ての危惧の声もあるが、小児科・産婦人科・救急医療を責任もって継続していけるか。</p> <p>相手方：初めから完全形というのは無理であるが、獲得できた医師でできることから着実に進めていきたい。それらは、不採算部門とは思っていない。</p> <p>市 長：貴会で最終的な目標としている 300 床が可能となった場合、機能等は拡充されるのか。また、市民にどのようなメリットがあるのか。</p> <p>相手方：現在、300～400 床の病院が最も効率が良いといわれている。診療科目は病床数ではなく、医師の数による。患者が集まる病院には医師が集まる。大学病院からの派遣も受けやすくなる。その意味ではやはり 300 床程度が必要。医師が増えれば、機能は高まり市民には大きなメリットとなる。</p> <p>市 長：市民や近隣住民との関係についてどう考えているか。</p> <p>相手方：市民公開講座、地域の医師向けの研修会など開かれた病院として行っていきたい。また、将来的には緩和ケアも行っていきたい。また例えば、病院の敷地内にコンビニをつくって、地域住民にも利用してもらおうなども考えている。川崎の病院ではコンサートなどもやっており、積極的に取組みたい。</p> <p>市 長：横浜南共済病院との重点的関連病院について記載されているが、具体的には。</p> <p>相手方：現状では、先方の理事長等と話をしている状況。</p>
---------	--

面 談 記 録

担当課 国保健康課

	<p>市 長：仮に貴会に決定した場合、県への 175 床の事前協議、開設許可申請、用途変更の都市計画手続、次期計画での病床の確保等、今後のスケジュール感として、相当の期間を要することはご承知おき願いたい。</p> <p>相手方：決定されれば、すぐに動きたい。特に医師の確保を確実にするには、募集をしながら、逗子に病院が出来るまでは他の病院で経験を積ませる必要がある。</p> <p>部 長：診療科目にはリハビリテーション科があるが、収支予算書にはリハ科はないがなぜか。</p> <p>相手方：リハ科については、複数の診療科でリハが行われるので複数の科の収入に入っている。</p> <p>課 長：差額ベッド料の収入見込約 3 億円が入ってこなかった場合や不採算部門の赤字の補てんを求められるのではという意見もあった。先ほど 300 床の効率がいいという理由に医師の確保のしやすさというメリットがあったが、経営の安定性という面からもいえるのか。</p> <p>相手方：収入については、新設なのであくまでも想定である。患者が集まるということは、経営的にも安定する。</p> <p>市 長：前回の病院誘致の時に二次救急医療を 1 億 3 千万円で委託することに議会や医師会からの異論があり、断念となった理由の 1 つともなった。そのあたりを懸念して確認した。</p> <p>相手方：これまでも補助金等はもらわないで経営してきており、この先も補助金等については、一切いただく考えはない。</p> <p>市 長：市としての意思決定にあたって大変参考になった。感謝申し上げます。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
--	---

以上のおり報告します。						報告日	平成 28・12・8	
市 長	副市長	部 長	次 長	課 長	係 長	係	合	議
								